

右側建物:2025年に開設する新校舎(II期棟)
左側建物:2019年に開設したI期棟



2025年、 理工学部※新設

(仮称・認可申請中)

「第二の開学」で 実現する学修者本位の学び

追手門学院大学

2025年、理工学部※の新設を目指す追手門学院大学。文理を超えた学びの環境の充実と教育DXを推進し、総合大学へと大きく進化を遂げようとしている。
制作 東洋経済企画広告制作チーム

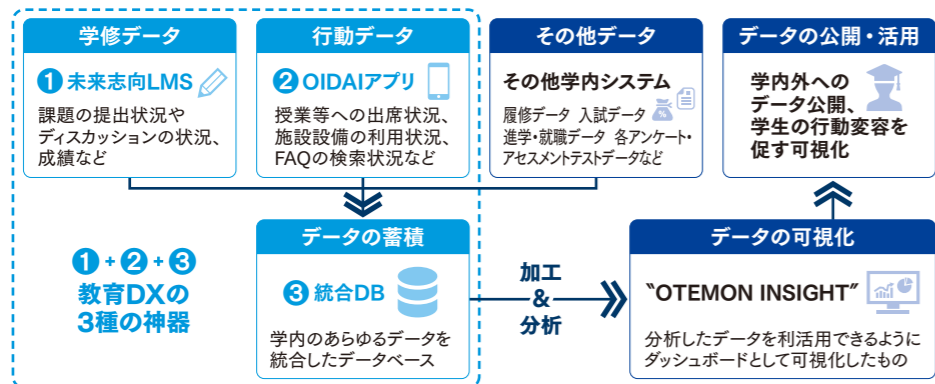
「第二の開学」には、ハード面だけでなく教育の高度化が

学生が学ぶ教室と教員の研究室を同じフロアに配置するなど、学生と教員、また学生同士がシームレスに行き交う空間を実現。また全長250mに及ぶ校舎の中央を貫く廊下を「イノベーションLAB」と名付け、あらゆるところで「学びあい、教えあい」が生まれる仕掛けを施す。「異分野との偶発的な出会いこそが、イノベーションを生み出す源泉です。文理を超えたコラボレーションがここかしこに生まれる。そうした学びの新しい形を体現するキャンパスになると期待しています」。

新学部増設により、学生数の増加も見込む。現在の8000人から1万人規模へと拡大し、大規模大学へ大きく前進することになる。

教育DXで推進する教育の高度化

教育DXにおける関係図



必須です。そのために教育DXを進めています」と真銅学長。その推進ドライバーとして3つのツールの整備に取り組んでいる。1つ目が、23年9月にリリースした「OIDAアプリ」だ。時間割や成績など学びに関する情報のほか、大学からのお知らせやバスの時刻表、学内のF

総合大学への 進化を見据え 理工学部※を新設

追手門学院大学は、2025年、同大学初の理系学部となる理工学部※を新設する予定だ。人文・社会科学系大学として認知されてきた同大学が理系学部を開設する狙いは、大学全体での「文理を超えた学び」の実現にある。「文系・理系といった枠にとらわれていては新しいものを生み出すことはできません。これからの社会でイノベーションを創出していける人材を育成するために、文理を超えた総合大学へ進化することを目指しています」と真銅正宏学長は語る。



学長 真銅 正宏

それに向け、19年、経営学部情報システム専攻、21年、心理学部に人工知能・認知科学専攻、22年に文学部に美学・建築文化専攻を設け、理系分野の拡充を進めてきた。22年の国際学部、文学部に加え、23年には法

文理を超えた学びを 実現するキャンパス

同大学は、文理を超えた学びをハード面から促進するべく、キャンパスの拡充・再編を進めている。理工学部※開設と足並みをそろえ、茨木総持寺キャンパスに新校舎(II期棟)を完成させる予定だ。これを機に茨木総持寺キャンパスをメインキャンパス化し、すべての学生が集う環境を整えていく。その中核となるのが、「文理を超えたハイブリッドキャンパス」を具現化する新校舎だ。

学部を開設。文系学部も拡充し、「文理を超えた学び」の基盤を強固なものにしてきた。その先にいよいよ誕生するのが、理工学部※だ。

新設される理工学部※は、理学と工学の両方の立場から、科学技術に関する研究と教育を実践するために、「数理・データサイエンス学科※」「機械工学科※」「電気電子工学科※」「情報工学科※」の4学科構成とする予定だ。「本学の学びがさらに多様になります。理工学部※新設は総合大学に向けた新たな1歩であり、「第二の開学」と位置づけています」と力を込める。

AQまで、学生生活におけるあらゆる情報のポータル機能を担う。新たにQRコードの表示・読み取り機能を搭載。学内各所に設置されたQRコードからの情報収集も可能にした。将来は電子学生証として利用することも構想中だ。

2つ目に進めるのが、学修状況や到達度などの学修に関するデータを自動収集するLMS(学習管理システム)の整備だ。理工学部※開設に合わせ、より高度な次世代LMSを導入するという。

そして3つ目はすべての基盤となる「超統合データベース(DB)」の充実だ。学生の学修、活動データのほか、今後は卒業後の進路などのデータも蓄積していく。さらにこの「超統合DB」にあるデータを可視化する「OTEMON INSIGHT」を構築。あらゆるデータを一元管理・見える化し、活用につなげていく。その狙いは、「学修成果を可視化」することで、学生自身に気づきや意欲を与え、「主体的な学び」へと行動変容を促



学生や教職員の声を基にアジャイル開発でバージョンアップを重ねる「OIDAアプリ」

すことにある。いずれはAIなども活用し、学生の希望進路に即して履修すべき科目や履修モデルを提示し、「効率的で効果的な学び」を目指したいという。「目指すのは、学びを個別最適化し、成果を最大化する「学修者本位の学び」を実現することにあります」と真銅学長。「大学の4年間で学べることは限られています。本学の役割は、社会に出てからも生涯にわたって学び続け、成長し続けられる力を培うこと。そのためにテクノロジーを活用し、主体的に学んでいく、いわば「学び方」を身に付けてほしいと考えています」。

文理を超えた学びの環境と教育DXによって、大きく進化を遂げようとしている追手門学院大学。次代にイノベーションを創出していく。そんな人材が育っていくのを楽しみに待ちたい。

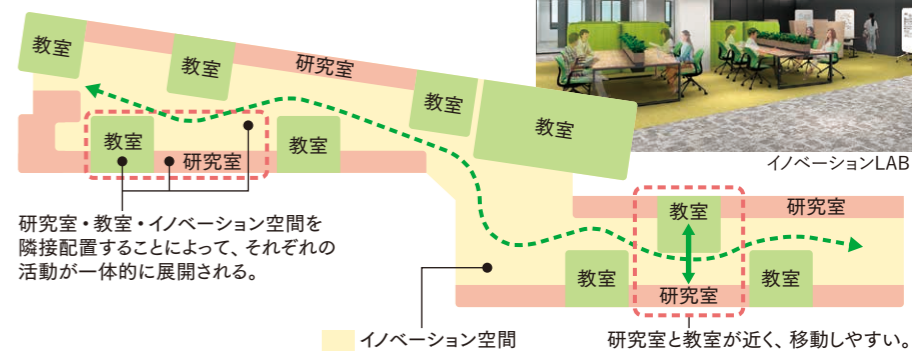
理工学部※ 学科構成(認可申請中)

学科名	学位	入学定員	収容定員
数理・データサイエンス学科※	学士(理学)	30名	120名
機械工学科※		50名	200名
電気電子工学科※	学士(工学)	50名	200名
情報工学科※		70名	280名
合計		200名	800名

1年次は茨木総持寺キャンパス、
2年次以降は茨木安威キャンパスで学ぶ

茨木総持寺キャンパスの新校舎イメージ

教室と研究室を互い違いに配置。イノベーション空間と一体化させ、学びあい、教えあいの協働を促す。



研究室・教室・イノベーション空間を隣接配置することによって、それぞれの活動が一体的に展開される。

イノベーション空間

研究室と教室が近く、移動しやすい。

追手門学院大学

https://www.otemon.ac.jp/
広報課 072-641-9590・入試課 072-641-9165

茨木安威キャンパス
茨木総持寺キャンパス

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2丁目1番15号
〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1番1号

※学部・学科名等、記載内容は変更になる場合があります。